

## Ⅲ. 2023年指標測定分析の特徴

### はじめに

2023年は5月8日に新型コロナ感染症の感染症法上の位置づけが2類相当から5類へ変更になり、大きな転換点となりました。まだ公費補償や補助金、ワクチンへの補助などは一部続き、人々の意識も急には変わらない側面もあったかと思えます。アフターコロナ、Withコロナへと誘導される中、徐々に日常医療へ復帰することが課題になった一年でした。その中で、医療の質向上という一見地味で、重要な課題への粘り強い取組みがあらためて求められています。

2023年の参加病院は95、全指標数は61指標、全病院指標31指標、DPC指標30指標となっています。昨年と大きな変化はありません。

全日本民医連のQIに関するデータは全日本民医連のホームページに格納されています。今回は61指標の中から、1、4、5、18、19の指標を選び、考察してみました。

### 指標1「在院日数 DPC病院の在院日数（全国平均以内の割合）」

2022年と同様の32病院がデータを提出しています。2022年と比較し、10施設でDPC入院期間Ⅱ以内の割合が減少、増加した病院は22施設となりました。2023年は感染状況の落ち着きもあったためか、期間Ⅱ以内の退院割合は概ね増加傾向でDPCベッド稼働は改善したものと思われま

### 指標4「入院早期の栄養ケアアセスメント実施割合」

4Aは急性期病院の入院3日以内の栄養アセスメント率、4Bは急性期以外で入院7日以内の栄養アセスメント率で、4Aは46病院、4Bは42病院からデータ提出がありました。早期に低栄養リスクを評価し適切な介入をすることで、在院日数の短縮、予後改善につながるとされる指標ですが、4A、4Bとも最小値は減少、とりわけ4Aは50%以下の病院が半減、100%の病院が1割など全体に改善しました。

### 指標5「褥瘡発生率」

58病院がデータを提出しており、昨年のデータと比較して、最大値が0.24から0.15になり、褥瘡発生は減少しています。また半数の病院で前年より改善しています。褥瘡発生率は栄養管理やリハビリテーションとも関連があり、それらのアウトプットという見方もできます。

### 指標18「リハビリテーション実施率」

リハビリテーションに関わる4つの指標の内、スタッフ一人当たりのリハ単位数は2023年の中央値253.90と、2022年の中央値236.95単位に比し大幅に増加しました。2023年5月以降のコロナ5類移行の影響やリハビリ職員による感染対策による、リハビリ提供の増加が伺えます。

### 指標19「誤嚥性肺炎に対する嚥下評価・訓練実施割合」

54病院からデータ提出が有、年間の対象患者が100人以上で10%以上低下した施設が0施設に対し、10%以上上昇した施設は9施設でした。コロナ禍では嚥下評価、訓練は

感染を引き起こす危険が有、懸念された傾向にありましたので、2023年は評価・訓練が可能になったものと思われま

### まとめ

これらはいずれも2022年に比べ、明らかに改善した数値を含む項目の一部で、民医連の病院がコロナ禍を経て、より効率よく質の高い医療を提供しようと奮闘した姿が伺えます。2024年診療報酬改定ではリハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算の新設が行われました。リハビリテーション、栄養、口腔をより関連付けて、管理を強化する必要がある時代背景を先取りするかのように関連する指標が2023年に改善したことは少なくともこれらの分野では日常医療への復帰、コロナ後の復興が前向きに行われているとみることができるのではないのでしょうか。2024年はさらにこれらの指標がどうなっていくか、見守る必要があります。

また、DPC算定要件の複雑化、診療報酬改定の影響、指標に影響を与える要因分析の複雑化など、DPC指標については検討課題も多くあります。DPCでは実は測定が困難な指標に関しては自院での測定や要因分析などを試みるとよいでしょう。2023年のDPC指標について、変化があった指標に着目します。

### 指標1「在院日数 DPC病院の在院日数（全国平均以内の割合）」 前述

### 指標25「退院後7日以内の予定外・緊急再入院割合」

### 指標26「再入院（30日）」

いずれも2022年より悪化しているように見えるが、2022年はむしろ新型コロナ感染症拡大による入院制限など特殊な状況だったとも考えられます。この指標がすなわち病院の医療水準を表すものではないことに留意しつつ、とりわけ7日以内の再入院については、個別の症例検討も必要です。

次の指標は指標としての評価よりデータソースとしての活用が勧められています。

### 指標50「全分娩中ハイリスク妊娠またはハイリスク分娩管理対象者の割合」

分娩数の減少によらず、ハイリスク妊娠の数が減少していない点は気になることです。

### 指標51「時間外・深夜の小児患者数」

DPC病院における時間外・深夜入院の小児患者数が2022年に比べ1、5倍に増えました。